

教 育 資 料

平成11年度第3号

「生きる力」としての情報活用 能力の育成に関する研究

- コミュニケーション能力の育成を図るためには -

平成12年3月

京都府総合教育センター

刊行に当たって

21世紀の社会は、国際化、高齢化や情報化等が進み、ますます、変化の激しい社会になると予想されます。そのような社会の中で、教育はその質的変革を迫られています。学校においては、生涯学習の基礎を培うという観点に立って、社会の変化に主体的に、柔軟に対応できる心豊かな人間の育成に努めなければなりません。

とりわけ、我が国の情報化の進展はめざましく、その影響は社会のあらゆる分野に及び、日常生活にも大きな変化をもたらしています。このような社会の中で生きていく子どもたちは、誤った情報、不確実な情報に惑わされることなく、必要な情報を選択し、自らの考えを築き上げ、また、情報機器や情報手段を主体的に選択し活用するとともに情報を積極的に発信するための基礎的な資質や能力、すなわち情報活用能力を育成していくことが重要です。

当総合教育センターでは、情報教育の推進に必要な教職員の研修の充実と施設・設備の整備を進めてきました。平成8年度に「京都府情報教育ソフトウェアライブラリーセンター」を開設し、平成9年度に「京都府教育情報ネットワークシステム拠点」を整備し、府内の公立諸学校などを結ぶネットワークの構築とインターネットの学校教育への活用を図っています。平成10年度には、これまでの教育情報衛星通信ネットワークシステムに双方向映像通信機能を整備し双方向での通信が可能になりました。

また、当総合教育センターの主要な事業の一つである研究事業として、情報教育部では、本年度「『生きる力』としての情報活用能力の育成に関する研究 コミュニケーション能力の育成を図るためには 」をテーマに研究を行いました。これからの高度情報通信社会に生きてゆく子どもたちに「読み・書き・算」と並ぶ基礎・基本として情報活用能力を身に付けさせることが重視されています。そこで本年度は、情報活用能力の内容について明らかにし、また、その構成要素の一つであるコミュニケーション能力の育成について研究を進めました。本資料はその研究成果の概要をまとめたものです。有効に利用され、情報教育が一層充実したものになることを期待しています。

最後に、研究を進めるに当たり、特に研究協力者の皆様には、実践的、専門的な立場から貴重な御意見や御助言をいただきました。厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

京都府総合教育センター

所長 村田 伯義

目 次

刊行に当たって

第1章	はじめに	1
1	研究主題	1
2	研究主題設定の背景	1
3	研究の内容及び方法	1
第2章	情報活用能力の内容に関する研究	2
1	調査研究協力者会議の第一次及び最終報告において	2
2	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」において	7
3	新学習指導要領と現行学習指導要領における情報化対応についての比較	14
4	「生きる力」としての情報活用能力とコミュニケーション能力について	17
第3章	学校におけるコミュニケーション能力の育成に関する実践について	23
1	マルチメディア通信による交流学习の実践	23
2	児童生徒用メールアドレス活用の実践	27
3	地域特性を活用した学校からの情報発信の実践	29
第4章	本研究のまとめと今後の課題	32
1	研究のまとめ	32
2	今後の課題等	33
	研究協力者一覧	34
	資料編	35